

2023年3月期 第3四半期決算 説明資料

2023年2月13日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2023年3月期 第3四半期決算

2. 2023年3月期 業績見通し

1. 2023年3月期 第3四半期決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2022年3月期 第3四半期累計	2023年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,404	1,401	-3	-0.3
営業費用	1,373	1,410	+36	+2.7
営業利益	31	-9	-40	-
経常利益	25	-15	-41	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-0	-21	-20	-

単体経営成績

営業収益	1,138	1,135	-3	-0.3
営業費用	1,123	1,159	+36	+3.2
営業利益	14	-24	-39	-
経常利益	8	-31	-39	-
四半期純利益	-11	-30	-19	-

- 連結営業収益は、マンション販売や東京レールゲートEAST等建物貸付が好調だったものの、運輸収入は新型コロナウイルス感染症や物価上昇による消費低迷、8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨、12月の新潟地区を中心とした風雪害による災害の影響を受け、減収。
- 連結営業費用は、マンション販売の売上原価の他、東京レールゲートEASTの竣工による不動産取得税、減価償却費の増加、車両修繕等の修繕費用の増等により増加。営業利益、経常利益、親会社に帰属する四半期純利益については共に赤字。

1. 2023年3月期 第3四半期決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2022年3月期 第3四半期累計	2023年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,265	1,246	-18	-1.5
	営業利益	-49	-95	-46	-
不動産事業	営業収益	152	165	+12	+8.5
	営業利益	76	82	+6	+8.5
その他	営業収益	29	30	+0	+2.3
	営業利益	2	1	-1	-41.6

(単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	1,014	997	-16	-1.6
	営業費用	1,076	1,105	+29	+2.7
	営業利益	-61	-107	-45	-
関連事業	営業収益	124	137	+13	+10.8
	営業費用	47	54	+6	+14.5
	営業利益	76	83	+6	+8.5

- 鉄道ロジスティクス事業は、新型コロナウイルス感染症や原材料費高騰に伴う物価上昇による消費の低迷が続き、8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨や、12月の新潟地区を中心とした風雪害による災害の影響を受け減収、東京レールゲートEASTの竣工による取得費用の増などもあり赤字拡大。
- 不動産事業は、マンション販売や建物貸付などが堅調に推移し増収、増益。
- その他事業は、営業収益は前年をやや上回ったが、リース売上原価等が増加し減益。

1. 2023年3月期 第3四半期決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2022年3月期 期末	2023年3月期 第3四半期末	対前期末 増減	備考
資 産	4,325	4,321	-4	流動資産 633億円 (対前期末 -92億円) 固定資産 3,687億円 (対前期末 +88億円)
負 債	3,323	3,341	+18	
純 資 産	1,002	979	-22	
自己資本比率	21.9%	21.4%	-0.5	

単体財政状態

資 産	3,970	3,947	-22	流動資産 437億円 (対前期末 -112億円) ・現金及び預金の減 -100億円 固定資産 3,509億円 (対前期末 +90億円) ・東京レールゲートEAST竣工等による増
負 債	3,253	3,261	+7	当期末長期債務1,840億円 (対前期末 +117億円) ・社債 200億円 (対前期末 ±0億円) ・有利子借入 975億円 (対前期末 +122億円) ・無利子借入 865億円 (対前期末 -4億円) 第三セクター線路使用料等未払金の減 -84億円
純 資 産	716	686	-30	

- 2022年3月にグリーンボンド（社債）を発行し金融市場より200億円調達。
- 震災・大雨に加え噴火にも対応した形でコミットメントライン（貸付限度額210億円）を継続。当期中の利用なし。

1. 2023年3月期 第3四半期決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2022年3月期 第3四半期累計	2023年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	52	60	+7	+14.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	-224	-267	-43	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	47	123	+76	+158.6
現金及び現金同等物の増減額	-124	-83	+40	—
現金及び現金同等物の期末残高	152	237	+85	+55.9

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	32	46	+13	+42.0
投資活動によるキャッシュ・フロー	-172	-238	-65	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	25	92	+66	+261.6
現金及び現金同等物の増減額	-114	-100	+14	—
現金及び現金同等物の期末残高	59	126	+67	+114.1

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、消費税の還付等により流入額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは、車両等の設備投資支払いが増加し流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入等による流入額が増加。現金及び現金同等物は期首から83億円減少し、期末残高は237億円。

1. 2023年3月期 第3四半期決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2022年3月期 第3四半期累計	2023年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸送量	19,768	19,692	-75	-0.4
コンテナ	13,980	13,794	-186	-1.3
農産品・青果物	1,177	1,114	-62	-5.3
化学工業品	1,210	1,203	-7	-0.6
化学薬品	944	922	-22	-2.3
食料工業品	2,261	2,252	-8	-0.4
紙・パルプ	1,623	1,553	-70	-4.3
他工業品	960	986	+26	+2.7
積合せ貨物	2,308	2,368	+59	+2.6
自動車部品	470	487	+17	+3.8
家電・情報機器	232	263	+31	+13.5
エコ関連物資	385	317	-68	-17.8
その他	2,405	2,323	-81	-3.4
車扱	5,787	5,898	+110	+1.9
石油	3,885	4,046	+160	+4.1
セメント・石灰石	990	927	-63	-6.4
車両	577	575	-2	-0.5
その他	333	350	+16	+5.0

- コンテナは、家電・情報機器、自動車部品、積合せ貨物等で前年を上回ったものの、エコ関連物資が前年7月の建設発生土の輸送終了に伴い減少したほか、農産品・青果物は下期以降、回復しつつあるが、上期の前年度の玉ねぎの作柄不良の影響、8月の大雨、12月の風雪害等の影響を受け、前年を下回った。紙・パルプも紙需要減に伴う影響により前年を下回った。車扱は、石油がガソリン需要が増え前年を上回った。コンテナ・車扱全体では、前年を下回った。© Japan Freight Railway Company

1. 2023年3月期 第3四半期決算

2. 2023年3月期 業績見通し

2. 2023年3月期 業績見通し

(単位：億円、単位未満切捨て)

連結

	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し	対前年同期		2023年3月期 前回見通し (2022.11.11)
			増減	%	
営業収益	1,866	1,894	+27	+1.5	1,948
営業利益	14	-20	-34	-	22
経常利益	2	-28	-30	-	15
親会社株主に帰属する 当期純利益	-14	-41	-26	-	-10

単体

営業収益	1,513	1,540	+26	+1.8	1,593
営業利益	-4	-36	-31	-	8
経常利益	-12	-44	-31	-	0
当期純利益	-26	-49	-22	-	-18

- 連結営業収益は、2024年問題やカーボンニュートラルを背景とした積極的な営業活動、及び東京レールゲートEAST等を組み入れた総合的な物流ソリューションの展開により対前年同期増収を見込む。一方、連結営業費用は、輸送需要に応じた列車設定や機関車の検査周期の最適化などコスト削減を図ったものの、原油高等の影響を受けて増加し、連結営業利益は対前年同期減益を見込む。
- なお、今回の業績見通しでは長期化するコロナ禍の影響等により、家電・情報機器、自動車部品等品目によっては回復基調にあるものの、全体の輸送量はコロナ禍前の水準まで回復することは難しいと判断し、前回見通し(2022.11.11)を下方修正した。

〔当社グループの事業系統図〕

